

# 円明寺屋敷

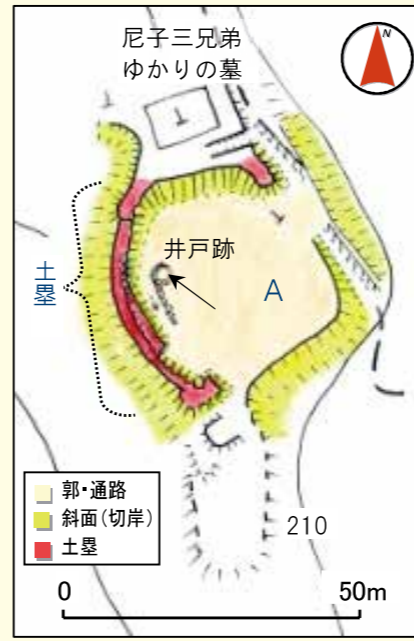
《高原町長田》

【登城ガイド】  
標高/220m、比高/60m  
史跡指定/市指定(墓のみ)  
城主/不明  
所要時間/東側入口から1分



円明寺屋敷遠望(北側より撮影)

周辺位置図



円明寺屋敷略測図(作図 秋本哲治)



井戸跡と土塁(Aより撮影)

戦国時代では屋敷(館)跡も広い意味での城跡と考えることができま  
す。今回は寺内にあった屋敷跡ですが、歴史的に重要な場所でもあり紹介  
いたします。県道から「尼子三兄弟ゆかりの墓」の案内板に沿って進むと  
容易にたどり着きます。

**立地**：住宅地に程近い低い尾根上にあります。屋敷のすぐ南には当時から広島方面へ繋がる道が通り、三篠川を挟んだ対岸には内藤氏の田屋城が望めます。本来の円明寺は、ここから100mほど高い山中にあり、古代の瓦や礎石が残ります。文献によつては「延命寺」「円明寺」とも記されています。

**歴史**：永禄9(1566)年11月、出雲尼子氏の本拠地であった月山富田城が開城し、城主尼子義久・倫久・秀久の三兄弟が毛利氏へ捕えられた。その後、12月14日に円明寺に護送され、幽閉されました。監視役を任されたのが長田の領主内藤元泰で、昼夜問わず厳重で丁寧な監視を続けました。幽閉は23年間にも及び、その後三兄弟は志路(白木町)に移り住み、毛利家臣となります。江戸時代には毛利氏に従い長門へ移り、佐々木と姓を変え存続しました。

**城跡**：郭Aの北側と西側に削り残した土塁が残り、部分的に石積も見られます。また井戸跡も残り、生活の痕跡がうかがえます。背後には明治時代に整備された、尼子家臣のものと思われる墓が残ります。

**考察**：『秋藩閩閩録』に、11月18日付(永禄9年か?)で、毛利輝元が内藤元泰に円明寺の普請を命じた文書があります。それが古代以来の円明寺とは別に、三兄弟の幽閉地として寺内に作らせたこの屋敷と推測されます。ただ、三兄弟と従者約20人に加え、監視する内藤氏の詰所も含む宿所としては狭い気もします。となると、この尾根上一帯が円明寺境内で、そこで複数箇所に分かれて幽閉されていた可能性もあります。

## シリーズ「お城拝見!」第五十二回

安芸高田市歴史民俗博物館  
学芸員 秋本哲治

## 編集後記

8月の豪雨により、我が家では数年前に続き2回目の床下浸水を経験しました。  
後片付けがたいへんでしたが、手伝っていただいた多くの身内の方に感謝しています。(浮田)

毎年、他のまちの議員さんらが視察にやってくるお太助ワゴン。皆さん感心されて帰られます。多くの方の協力のおかげで運行されています。(森本)

利用者、事業者の皆さんの協力により、順調に運行しているお太助ワゴン。多くの人の助け合いの気持ちが入められているこの乗り物に、「お太助」というネーミングは、とても合っているなと感じました。(田村)

## 今月の表紙

お太助ワゴンでプールに向かう米田くんと松野くん。元気がいっぱい二人がとても印象的でした。

## お太助ワゴンに乗るぞー!



(今月の主な内容)  
2~5  
お太助ワゴンに乗って出かけよう!

発行編集 安芸高田市 政策企画課 〒731-0592 広島県安芸高田市吉田町吉田791 Tel.(0826)42-5612 Fax.(0826)42-4376 http://www.akitakata.jp/